

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和6年1月31日

協議会名: 上毛電気鉄道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>①協議会開催・運営 内容: 鉄道の今後のあり方検討、地域公共交通計画の策定等 結果: 第1回(R5.10.10)、第2回(R6.1.30)</p> <p>②沿線利用実態調査 内容: 沿線地域の現状分析、鉄道事業者の現状並びに将来分析、鉄道存続、モード転換の効果、課題検討 等 結果: 11月 中間報告 (R6年3月最終報告)</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>次年度以降、鉄道のあり方や公的支援方法等について法定協議会等で議論を進め、方向性が決定次第、沿線の地域公共交通計画策定を進める予定</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画通りに適切に実施されており評価できる。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の改善につながるポイントをあぶり出せるような客観的根拠となる調査に期待する。 ・他地域の良い事例や、最新技術などの積極的導入も検討してほしい。 ・公共交通に関するデータに関しては、沿線自治体が普段から形式を揃えておくようにしておく、こういうときに役立つ。
--	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和6年1月31日

協議会名: 上信電鉄沿線地域交通リ・デザイン推進協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>①協議会開催・運営 内容: 鉄道の今後のあり方検討、地域公共交通計画の策定等 結果: 第1回(R5.10.10)、第2回(R6.1.22)</p> <p>②沿線利用実態調査 内容: 沿線地域の現状分析、鉄道事業者の現状並びに将来分析、鉄道存続、モード転換の効果、課題検討 等 結果: 11月 中間報告 (R6年3月最終報告)</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>次年度以降、鉄道のあり方や公的支援方法等について法定協議会等で議論を進め、方向性が決定次第、沿線の地域公共交通計画策定を進める予定</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画通りに適切に実施されており評価できる。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の改善につながるポイントをあぶり出せるような客観的根拠となる調査に期待する。 ・他地域の良い事例や、最新技術などの積極的導入も検討してほしい。 ・公共交通に関するデータに関しては、沿線自治体が普段から形式を揃えておくようにしておく、こういうときに役立つ。
--	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和6年1月31日

協議会名: わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>①協議会開催・運営 内容: 鉄道の今後のあり方検討、地域公共交通計画の策定等 結果: 第1回(R5.10.10)、第2回(R6.2.6)</p> <p>②沿線利用実態調査 内容: 沿線地域の現状分析、鉄道事業者の現状並びに将来分析、鉄道存続、モード転換の効果、課題検討 等 結果: 11月 中間報告 (R6年3月最終報告)</p>	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>次年度以降、鉄道のあり方や公的支援方法等について法定協議会等で議論を進め、方向性が決定次第、沿線の地域公共交通計画策定を進める予定</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画通りに適切に実施されており評価できる。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の改善につながるポイントをあぶり出せるような客観的根拠となる調査に期待する。 ・他地域の良い事例や、最新技術などの積極的導入も検討してほしい。 ・公共交通に関するデータに関しては、沿線自治体が普段から形式を揃えておくようにしておく、こういうときに役立つ。
--	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和6年1月30日

協議会名: 上毛線再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>上毛線の既存の取り組みについて、見直し・検証を行うことで、抜本的な改善方策につなげるために必要な実証事業を実施</p> <p>①サイクルトレイン実証運行(全23駅の取扱い) 内容:現在、「サイクルトレイン」ご利用のお客様へのご案内は、編成後部車両のご乗車としているが、編成前部車両にもご乗車可能とすること、また、「サイクルトレイン」の取扱いを行っていない平日朝(ピーク時間帯)の対象列車を変更(第3列車追加)することの見直しについて、お客様の安全面に配慮しつつ、実施可能か検証を行う。 結果:サイクルトレイン利用者数は対実証運行前比1.9%増(目標:10%増)に留まりましたが、アンケート調査結果では、多くの方(回答者の80%以上)が編成前部車両に乗車可能とすることに好意的で前向きであり、今後、編成前部車両に乗せられることが定着すれば、新たな利用者増に繋がると考えます。なお、サイクルトレインの取扱いを行っていない平日朝(ピーク時間帯)の対象列車変更(第3列車追加)は、実証運行で一定の需要があること、また、対象列車に追加することに特段の支障のないことが確認できましたので、実証運行後も引き続き継続することとしました。</p> <p>②パークアンドライドのPR(上泉、江木、大胡、北原、粕川、新里の計6駅) 内容:既存の取り組みの認知度を上げるため、宣伝のぼり旗の新設、既存宣伝看板の更新によりPR強化を図り、自家用車から鉄道利用の促進を行う。 結果:パークアンドライド駐車場利用者数は対実証運行前比27.5%増(目標:20%)となり、自家用車から鉄道利用への促進に寄与しました。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>①サイクルトレイン実証運行(全23駅の取扱い) 今後はHP・デジタルサイネージを活用して発信を強化し、利用者数の増加を目指す。</p> <p>②パークアンドライドのPR(上泉、江木、大胡、北原、粕川、新里の計6駅) 実施事業により利用促進への効果が確認できたことから、引き続き同様の利用促進策に取り組む。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画どおりに適切に実施されており評価できる。 引き続き鉄道利用への促進策に取り組みながら、検証結果を今後の上毛線のリ・デザインの協議に活用していただきたい。</p>
--	--

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和 6年 1月23日

協議会名: 上信電鉄沿線市町村連絡協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>上信線の既存の取り組みについて、見直し・検証を行うことで、抜本的な改善方策につなげるために必要な実証事業を実施</p> <p>①サイクルトレイン実証運行 内容:「サイクルトレイン」の対象に、現在は「サイクルトレイン」の取扱いを行っていない平日の朝・夜間帯(上り第18列車～第66列車・下り第11列車～第165列車)並びに、休日の早朝・夜間帯を加える。その際に、現在は「サイクルトレイン」と利用のお客様は2両編成のうち後部車両にご乗車いただいているが、先頭車両も利用可能とする事で他のお客様との交差を最小限にしつつ、夜間の運転士からの視認性を高め、安全を確保する。これらの取り組みについて、お客様の安全面に配慮しつつ、実施可能か検証を行う。</p> <p>結果 ・サイクルトレイン実証運行期間中(12月1日～1月23日)の利用台数は、合計で52台でした。新たに加えた時間帯の利用台数は17台で、全利用台数の33%を占めています。 前年度比較(12月1日～1月23日)では、3台増の6%増となりました。 今後、利用できる列車が増便になったことについて、より一層の周知を図れば新たな利用者の増に繋がると考えます。</p> <p>・先頭車両乗車については、事前に運転士に対し利用駅および乗車台数を知らせるため、先頭車両でも後尾車両でも安全性に問題はありませんでした。</p> <p>・アンケート調査の結果は82通回答があり「利用できる駅を増やしてほしい」との意見がありました。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p> <p>A</p>	<p>利用できる駅の追加、1列車に多数の利用者が集中した場合について関係者で検討しながら事業を継続します。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画どおりに適切に実施されており評価できる。 引き続き鉄道利用への促進策に取り組みながら、検証結果を今後の上信線のり・デザインの協議に活用していただきたい。</p>
--	--

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和6年1月29日

協議会名: わたらせ渓谷鐵道再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>「冬も楽しい わたらせ渓谷鐵道(ぐんまちゃん・マスコットキャラクターも一緒)」 ※寡客期(冬季)の利用促進対策で便数維持</p> <p>(内容)</p> <p>①便数を維持するための取り組み 通常ダイヤでの運行(わたらせ渓谷線:間藤～桐生駅間) 12月1日～2月29日の間、全列車が沿線自治体のマスコットキャラクター色となり、これまで冬季に利用が少なかった新たな層(子供づれ、キャラファン、女性グループ、カップル等)の利用促進を図る。</p> <p>②利用促進のための取り組み(国庫補助対象外) ・12月1日～3月31日の間、普通列車に1両、群馬県マスコットキャラクター「ぐんまちゃん」のラッピング列車を導入し、他の車両についても、沿線自治体のマスコットキャラクターの内装等を行う。 ・各駅の駅名標について、駅ごとの個性化(駅にちなんだ特色ある図案化等)を図った駅名標を活用し、マンホール巡り・カントリーサイン巡りのような駅名標を目的とした鉄道利用の仕掛けを作り、利用客促進を図る。(期間中に改修)。 ・花桃の名所となっている神戸駅に植樹による駅前環境の整備を行うことを目的に、一般客等を対象とした「花桃植樹祭」としてイベントを開催する。植樹を行うことにより駅環境への意識や親しみを持ってもらい、祭の効果、PR効果等による集客を図る。 ・12月1日～2月29日の間、全17駅にイルミネーションを施し、「イルミネーション号」として企画旅行を催行し、利用促進を図る。 ・12月1日～3月15日の間、東武鐵道と日光バスにより一筆書きの利用ができるデジタル日光・足尾ルートバスを販売し、集客を行う。今回初めてチケットをデジタル化し、幅広い世代の利用を見込む。</p> <p>③実証事業を今後の利用促進に繋げるための取り組み 上記の取り組みについて、利用者へのアンケート調査・集計を行い、効率的な利用促進に繋げる。また、アンケート協力者へのノベルティの配布を行う。</p> <p>結果:列車内に各沿線自治体のマスコットキャラクターの装飾をし、幅広い層の乗客が車内でも楽しめる工夫をした。またラッピング列車を「ぐんまちゃん30周年記念列車」とし、わたらせ渓谷鐵道沿線自治体のマスコット、桐生市の「キノビー」、みどり市の「みどモス」、日光市の「日光仮面」のほか、わたらせ渓谷鐵道のマスコット「わっしー」もデザインし運行している。</p>	<p>A 事業が予定通り適切に実施された</p>	<p>①今後も沿線自治体が協力をし、利用層の幅を広げることができるよう、イベント等を開催する。(令和6年2月10日に各沿線自治体及びわたらせ渓谷鐵道でマスコットキャラクターが登場するイベント開催予定)</p> <p>②駅名標については、改修中であるが、完成後に乗客が駅名標を目的として訪れてもらえるよう、周知・宣伝をする。「イルミネーション号」について、各駅のイルミネーション事業は例年実施しており、今後も継続して事業の継続をし、また「イルミネーション号」についても冬季のイベントとして毎年運行をしていく。</p> <p>③アンケート調査・集計は継続中であるが、調査後、利用者からの意見を踏まえながら、改善及び工夫をし誘客に繋げることができるようにしていく。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画どおりに適切に実施されており評価できる。 引き続き鉄道利用への促進策に取り組みながら、調査結果を今後のわたらせ渓谷線のり・デザインの協議に活用していただきたい。</p>
--	--